

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念をつくりあげている。 運営理念：共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事ができるように、私達は温かく支援します。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し常に入居者に対して運営理念に沿った接し方を行っている。月1回の全体会議や機会があるごとに理念の再確認を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	これまで通いなれた商店、美容院、歯医者等に職員や家族と行き地域の皆様に声かけをして頂く機会を持っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々にも気軽に立ち寄っていただけるよう鍵をかけたらずオープンにしている。特に入居者のお友達などは気軽に立ち寄っていただける。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に地域の方々との交流に努めている。特に夏祭りなどは地域の方々が多く参加された。地域の青年団の人達や子供達もボランティアで踊りや太鼓を披露してくれたり、入居者や家族様も大変喜ばれた。	○自治会に入会する事が出来ていないので、今後地域活動に参加できるように取り組んでいきたいと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約書を双方で読み理解できるよう説明を行ないその都度不安点、疑問点がないか尋ね、理解・納得を図っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居契約時に、入居者や家族に、苦情、意見、不満などは気楽に報告できるように苦情窓口の連絡先を知らせ周知している。(利用者は家族に訴え家族からの報告となると思われる)	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月請求書を郵送する時に、各入居者の健康状態、日常生活状態、献立、ホーム便りなど写真も混えて報告している。職員の異動については訪問時に話している。金銭管理は必要時に家族の了解を得て購入、後請求する為基本的にはお金は預からないようにしている。自身が金銭管理を行っている方は4人いる。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居契約時に、入居者や家族に、苦情、意見、不満などは気楽に報告できるように苦情窓口の連絡先を知らせ周知している。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	運営者や管理者は最低毎月1回は意見を聞く機会を全体会議で設け反映させている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	各ユニットにリーダー・サブリーダーを置き、常に必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にしているので、異動や離職を最小限に抑えられるように努めている。異動や離職の場合は徐々に勤務を減らすようにしてダメージを防ぐ配慮をしている。又利用者にはきちんと話すようにもしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、育成に理解があるため管理者や職員は研修に参加しやすく所外研修を行なった職員や管理者は所内研修を行ない全職員が働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持つため勉強会を開催したり、相互訪問などの活動を行ったりして、サービスの向上や職員のスキルアップの為に取り組んでいる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員が話しやすい環境づくりに取り組み、ストレスを抱え込まないようにその都度話し合い、対応するように心がけている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自が向上心を持って働けるように、ドクターである運営者は、勤務状況を把握し緊急時の対応など適切な指示をくだし努力や実績を見とめ行事などに積極的に参加する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者より家族に聴く機会が多いが、困っていることや不安なこと求めていることを時間や日にちをかけて聴き受け止める努力をしている。特に本人には不安を取り除くよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困っていることや不安なこと求めていることを時間や日にちをかけて聴き受け止める努力をしている。又けっしてホームに入居することが本人にとって不幸ではないことを話している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、ホーム職員、家族、ケアマネと今、何に困っていて何が必要かを十分話し合う機会を持ち、その時まず必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応が出来るように説明している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居して頂くのではなく、本人や家族に何度かホームに来ていただいて、ホームの雰囲気本人に合うかどうか見ていただいたり、職員が自宅に伺い本人と話し合う機会を持っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念にも謳っているように「共に生活される方々の・・・」支えあえる関係を築いている。特に本人の訴えや話す内容から思いを組みその話や訴えから根底に何があるかを知ることが心掛け、喜怒哀楽は勿論、本人から学ぶことも多々あり共感し支えあえる関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には、本人と一緒に支えるという意味で常に本人の生活状況を伝え、意見を聞き喜怒哀楽を共にし、共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	特に家族にはこれまでの介護の苦労に対して共感し、本人には家族がとても大切に思っている事があるごとに話しよい関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの関係が途切れないように行きつけの商店や美容院、友達など行き来できるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いが協力し合える場面作りを工夫して、利用者が関わり合ったり、助け合えるようにしている。例えば、利用者同士お茶を入れあうご飯をよそいあう声を掛け合う等、又介助の必要な方の食事介助を申し出でて介助を行ったりしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、本人から手紙がきたり電話がかかってくるなどに対しても継続的に支援している。又家族がボランティアでレクリエーションに参加したり、納涼祭に参加、又ホームに立ち寄られたときは、懐かしく利用者の思い出話を行うなど家族ともつきあいを大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションの時間を大切にし、本人の思いや希望を把握する事に努め、思いや希望がかなえられるように検討実行できるよう努力している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に家族にこれまでの生活歴や暮らし方等の情報を頂きサービス利用の経過などの把握に努めサービス計画作成に活かしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録を通してニーズに取り出し現状を総合的に把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、家族や関係者と話し合い、本人の気持ちになってそれぞれの意見やアイデアを出していただき、情報を集め、生活してみて職員と話し合いを続けながら介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常にニーズを見据え変化が現れた場合は、家族や本人の気持ち必要な関係者の話を聞き見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に記録や申し送りなどで気づきなど情報を共有し見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、安心して生活して頂く為に医療機関と密に連絡を取り家族に報告、意見を聞きケアに活かすなど特に医療連携での支援では終末期ケアにも積極的に係り家族に喜んでいただいている。又家族の状況に応じ通院、買い物の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に参加していただいたりして、具体的な意見を聞き協力のもと支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との話し合いの場がある場合には積極的に参加し情報を得て他のサービスを利用するときの参考にする。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人、家族の意向や必要性に応じられるように地域包括支援センターと連携をとり協働している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>重度や終末期をより良く暮らして頂ける様に、介護職の出来る事、かかりつけ医、看護師の出来る事を明らかにしてチームとして取り組んでいる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	例えば自宅からグループホームへ移り住む場合などは家族、本人、ケア関係者と充分話し合いを行い、情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念にも謳っているように、常に1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような対応は行っていない。個人情報や記録の取り扱いなど守秘義務に関して職員には、入社時や常々説明を行い守るように周知徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で選択できる場面や事柄を多く作っている。例えば衣服を選ぶ、入浴時間、おやつや飲物等自分で選び納得して暮らせるように支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念にも謳っているように、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らすことが出来るように職員は見守りながら楽しく共に生活している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしく暮らして頂けるように馴染みの理美容院に行けるように支援している。おしゃれや身だしなみには本人の気持ちを大切に思う声かけをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員とが相談しながら4、5日分の献立を考える。買い物にも一緒に行き、食事の準備を行い、後片付けも一緒に行っている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	意思表示をされる入居者には本人の望みに添い、意思表示が困難な方には普通の会話の中から好みや望んでいる事を把握し、日常生活に取り入れるよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄状態を把握する為に正確に記録を取り、1人ひとり排泄パターンを知り失禁を防ぐように支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日健康チェックを行い入居者に入浴を促し、出来る限り希望の時間、温度にしている。毎月2回温泉の日を決め日々の入浴に変化をもたしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	和室に布団を敷き横になっていただいたり居室でのベットは布団に変えたりその時々状況に応じた対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々のコミュニケーションの中からその方の生活歴や楽しみごとを把握し日常生活の中で活かしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の希望に添った支援を行っている。金銭管理が出来ない方については、買い物の折支払いを体験してもらう。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	意思表示が出来る方には、希望に添えるように時間や職員配置に工夫をしている。意思表示が出来ない方には、こちらから買い物に誘ったり散歩等の声かけを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常のコミュニケーションの中で情報を集めている。家族に本人の思いを話してみたり、ホームから外出に出かけたり、梅、桜、紅葉、花火等季節の節々に出かける機会を作っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達等大切に思っている方々からの手紙や電話はよくある。又電話をかけたいとの希望に沿っているし手紙のやり取りができる方には支援を行い出来ない方々には返事を書いていただいたり年賀状や暑中見舞などは全員出せるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員全員が来訪者を歓迎している。入居者の穏やかな笑顔と喜びを共感出来るように、又気楽に訪問して頂ける様に場所設定、(静かに過ごして頂く、皆と楽しく過ごして頂くなど)お茶、手作りおやつ、喫茶の日など工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作ったり研修に参加するなど職員間で具体例を挙げ拘束しないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることはせず見守りの中自由にして頂いている。出かけられるときは、コミュニケーションを取りながら付き添い気持ちに寄りそっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者の話せる位置、見守れる位置に常に居れる様に心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1人ひとりの状況に応じて、はさみ、針、包丁など使われる場合はさり気なく見守り、後片付けを徹底している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月1回の全体会議で常に話し合い1人ひとりの状態を把握した取り組みを行っている。半年ごとに過去の事故ヒヤリハットの分析を行い事故防止の対策を行っている。又毎日の申し送り時も再確認を行っている。	○	事故防止の取り組みを行っているが、事故、ヒヤリが減少し続けられない為引き続き取り組んでいく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルの作成見直しを行っている。職員間で周知徹底できるように全体会議を通して事故を想定した訓練を年間行事に取り入れている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、民生委員、警察署の方々にも運営推進会議に参加していただき協力をお願いしている。又年数回避難訓練を行っている。	○	地域の人々の協力が得られるように、避難訓練の様子などを報告する機会を作って行きたいと思っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	特に入居時アセスメントの中からその方の起こりうるリスクについて家族と話し合い、入居後も変化があればその都度説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1人ひとりの体調や変化に早く気付くように日勤、夜勤者との連携を密にとり情報の共有化、家族、管理者、ドクターとも連携が取れている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に医師や薬剤師と連携を取り指示に従っている。複数の職員による服薬確認を行い、服薬による症状の変化などに気をつけるように毎回申し送り時確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘による原因や及ぼす影響を理解し、排便チェックを行いながら水分や運動に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後1人ひとりに応じた口腔ケアを行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のおおよそのカロリーを把握し、1人ひとりの食事形態に合わせ栄養のバランスや量を考えながら献立作りを行っている。食事や水分量などは毎回チェック表に記録して職員間で情報を共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する研修には積極的に参加し、申し送り時や全体会議で所内研修を行っている。又ホーム内に感染委員を置き予防に力を入れている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染委員を中心に食中毒の予防の為に検討を繰り返し衛生管理を行い、新鮮で安全な食材を使用できるように曜日を決め冷蔵庫内外の清掃を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には鍵をかけず、庭には草花や球根を植え、毎日水やりを行ったりして生活観があり家族や近隣の人が尋ねやすいように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間には家庭で使われているものを利用して家庭的な雰囲気作りを行い、不快な音や光がないようにカーテンなどで工夫を行っている、又詩や絵等を一緒に描いたりして季節を一緒に感じるように支援している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関、庭等に椅子やソファを置き、さり気ない見守りやコミュニケーションをとり思い思いに過ごせるように工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や思い出の品物を多く置 き、本人が居心地よく過ごせるように家族と話し 合って工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室は勿論共有の場所の換気や温度調節は入居者 の状況に応じてこまめにおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	入居者が安全に自立した生活が送れるように、洗 濯物を干したり、台所に自由に入出入りしたり、段 差をなくし手すりをつけるなど工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレや風呂場、居室等わかりやすく表示して混 乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	各居室のベランダには洗濯物を干しやすく高さを 工夫したり、庭に出てお茶を飲んだり、草花を育 てたり入居者が活動しやすく楽しめるように工夫 をしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全職員が事業所内で作る委員会に属し(環境委員・生活の質委員・感染委員・行事委員)職員間の連携も取れ入居者に安心して季節の移り変わりを感じていただいている。職員のスキルアップのための所外・所内研修や勉強会を適時行っている。